

問い合わせ対応による課題解決と研究開発ニーズ集積の自動化：輸出促進を目指す新たな農産物流通知識シェアリングシステムの開発

1 代表機関・研究統括者

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 渡邊 高志

2 研究期間：令和7年度～令和9年度（3年間）

3 研究目的

拡大する海外市場への農産物輸出を促進するため、輸出技術に対する問い合わせ対応と、現場の研究開発ニーズの集積を両立し、現場課題の高効率解決を目指すシステムを作成する。

4 研究内容及び実施体制

輸出技術に関する問い合わせ対応による課題解決と研究開発ニーズの収集を両立する知識のシェアリングシステムを開発するため、以下の2つの課題を推進する。

①中課題1 基礎システムの構築

質問⇄回答等の知識のシェアリングを行うシステムを設計および構築する。また、質問への回答の基となるテキストデータを作成する。

（農業・食品産業技術総合研究機構、茨城県）

②中課題2 イチゴ品質の劣化指標の開発

イチゴの劣化評価に関する質問を想定した回答の基となるテキストデータ用の新たなデータを取得し、構築する基礎システムに搭載する。

（農業・食品産業技術総合研究機構）

5 最終目標

茨城県の普及指導職員等がイチゴ等の輸出に関して実際に行った現場課題に関する50以上の質問に対し、適切な解決策を提示でき、研究開発ニーズが集積可能で、イチゴの劣化評価に関する回答が可能なシステムを提案する。

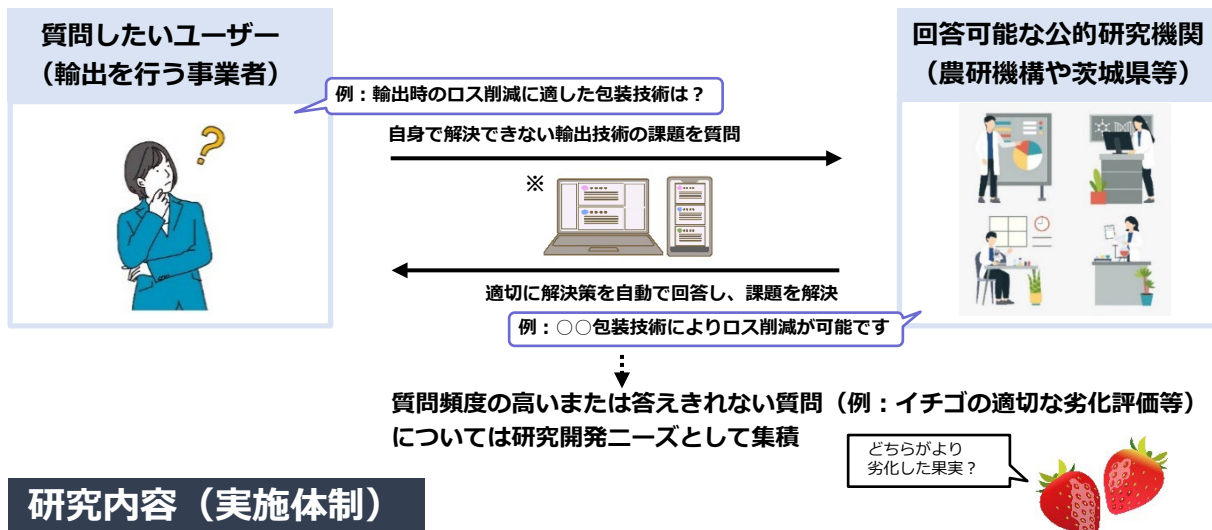
6 期待される効果・貢献

輸出技術に関する問い合わせ等に対応するシステムをWEBページで公開することによって、日本が強みを持つイチゴ等の輸出重点品目の輸出における現場の課題が迅速・的確に解決される。

研究目的（背景）

- 拡大する海外市場に日本がアプローチするには輸出に関する課題解決が不可欠
- 輸出技術に関する問い合わせ対応による課題解決と研究開発ニーズの収集を両立する知識のシェアリングシステムにより、現場課題の効率的解決を目指す

※以下のような知識のシェアリングを促進する基礎システム（※）を開発



研究内容（実施体制）

解決に向け共同研究！



中課題 1．基礎システムの構築

- 質問⇔回答等の知識シェアリングの基礎となるシステムを構築（農研機構）
- 質問に対する回答の基になるテキストデータを作成（茨城県）

中課題 2．イチゴ品質の劣化指標の開発

- イチゴ品質の劣化評価に関する質問を想定した回答に使うテキストデータ用の新たなデータを取得し、構築する基礎システムに搭載（農研機構）

最終目標

- 茨城県の普及指導職員等がイチゴ等の輸出に関して実際に行った現場課題に関する50以上の質問に対し、適切な解決策を提示でき、研究開発ニーズが集積可能で、イチゴの劣化評価に関する回答が可能なシステムを提案

期待される効果・貢献

- 輸出技術に関する問い合わせ等に対応するシステムをWEBページで公開することによって、日本が強みを持つイチゴ等の輸出重点品目の輸出における現場の課題が迅速・的確に解決される